

県議会

定数削減本格議論へ

県議会で選挙区の見直しや定数削減の議論が始まった。本格的には新年度からだだが、一部の議員からは早くも削減反対の意見が上がる。市町議会で大幅な削減が進む中、県議会は2007年の改選後、定数46を維持。議員の存在意義にもかかわる問題だけに難航が予想される。

選挙区や定数の見直しは、もともと11年の改選後に設置した県議会・県政改革特別委員会の検討事項に挙がっていた。高比良元・委員長は「県民から『もつと議員を減らすべきだ』という意見をもらった」と説明。「県民が望む効率的な議会運営のため、自主的に検討するのは当然だ」と理由を語る。

現在の議員定数は46。各選挙区の定数は、05年の国勢調査人口(約147万9千人)に基づき計算した「議員1人当たりの人口」で算出している。最多の五島市(約4万5千人)と、最少の雲仙市(約2万5千人)の格差は1.79倍。しかし10年調査(約142万7千人)では、最多の五島市(約4万1千人)と最少の南松浦郡(約2万2千人)の差は1.84倍に開いている。県議会事務局によると、07年以降に16道府県議会が定数を削減した。しかし人口が同規模の

奈良、滋賀、山口、愛媛も49で、本県が極端に多いわけではない。一方、市町村議会は、合併で議員が大幅に減った。「平成の大合併」直前の03年は県内に1274人いたが12年は450人と4割を切る。佐世保、諫早、雲仙など、九つの議会が次の改選でさらに減らす予定だ。

18日の特別委は勉強会として開いたが、一人会派の委員からは早速、反対意見が噴出した。共産の委員は「国勢調査が2年後にある。10年人口を根拠とする理由がない」と指摘。無所属愛郷の会の委員は「県議は地域の代表者。いたずらに減らすべきではない」とけん制した。ほかの議員にも温度差があるようだ。公明の議員は「市町は定数を減らしている。厳しい財政の中、県議会だけそのままということにはならない」と推進の立場。

県内の市町村議会議員数の推移

2003年 (旧市町村名)		2012年 (市町名)	
長崎市・香焼町・伊王島町 高島町・野母崎町・三和町 外海町・琴海町	141	長崎市	40
佐世保市・吉井町・世知原町 宇久町・小佐々町・江迎町 鹿町町	115	佐世保市	36 (33)
島原市・有明町	39	島原市	21
諫早市・多良見町・森山町 飯盛町・高来町・小長井町	114	諫早市	34 (30)
大村市	28	大村市	25
平戸市・大島村・生月町 田平町	61	平戸市	23 (20)
松浦市・福島町・鷹島町	45	松浦市	19 (18)
厳原町・美津島町・豊玉町 峰町・上県町・上対馬町	91	対馬市	22 (21)
郷ノ浦町・勝本町・芦辺町 石田町	62	老岐市	20 (16)
福江市・富江町・玉之浦町 三井薬町・岐宿町・奈留町	92	五島市	22
西彼町・西海町・大島町 崎戸町・大瀬戸町	78	西海市	20
園見町・瑞穂町・吾妻町 愛野町・千々石町・小浜町 南串山町	98	雲仙市	26 (21)
加津佐町・口之津町・南有馬町 北有馬町・西有家町・有家町 布津町・深江町	112	南島原市	24
長与町	24	長与町	20 (16)
時津町	20	時津町	16
東彼杵町	16	東彼杵町	12
川棚町	18	川棚町	16
波佐見町	18	波佐見町	14
小値賀町	12	小値賀町	10
佐々町	16	佐々町	10
若松町・上五島町・新魚目町 有川町・奈良尾町	74	新上五島町	20 (16)
県計	1274	県計	450 (421)

※( )内は次回選挙時の議員数

現行46 賛否が交錯、行方注目

県政改革県民の会の議員は「2年後の国勢調査でさらに人口が減り、大幅な定数削減を迫られる」、自民の議員は「離島半島が多い地理的特殊性を考慮した議論が必要」と慎重な姿勢を見せる。衆院選出馬などで現在、4人欠員の状態が続いており、議員から「削減を考える空気がなっている」との声もある。長崎市など定数の多い区域、定数2の市が三つある島原半島を削減対象とする具体的な案も出ている。公職選挙法上、選挙区の人口が「議員1人当たり人口」の50%以上100%未満の区域は、任意で隣接する選挙区と合区できる。県内では11年から佐世保市と北松浦郡を合区した。これを受け五島市と南松浦郡を1選挙区にする案も聞こえてくる。ただ、離島や1人区の定数を減らすことには慎重な意見が多い。来年の知事選では長崎市、佐世保市・北松浦郡、島原市、雲仙市の4選挙区で補選があるが、定数は一般選挙(任期満了など)でしか変更できない。このため、見直しを決めた場合には最短でも15年改選からの適用となる。(小西愛純)

